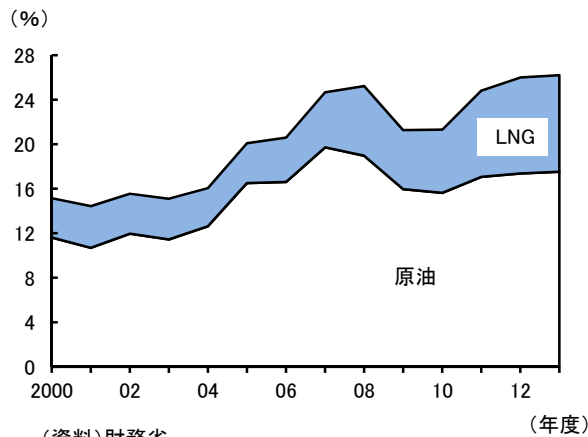


2013年度の原油・LNG輸入額の増加は円安が主因

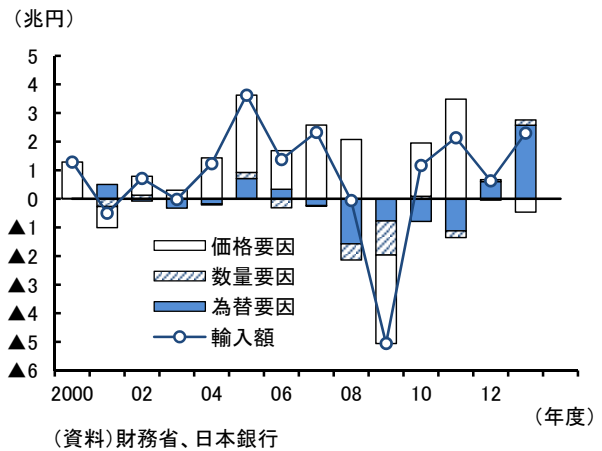
～ 数量要因による押し上げは、今後も限定的にとどまる見込み ～

- (1) 東日本大震災後、原発代替電源として火力発電への依存度が上昇するなか、燃料となる原油やLNGの輸入額が大幅に増加。原油・LNGの輸入額が輸入全体に占める割合をみると、2012年度以降、原油価格が高騰した2007～08年度を上回り、2013年度には26%強まで上昇（図表1）。
- (2) もっとも、火力発電の燃料消費量の増加に伴う輸入量の増加が、原油・LNGの輸入額に与えた影響は限定的。原油・LNGの輸入額の変動を、①価格要因（契約通貨ベース）、②数量要因、③為替要因、に分けてみると、震災以降、原油ではほぼ数量要因による変動はみられず、むしろ2011年度は価格の上昇が輸入額を大きく押し上げ（図表2）。LNGでは、2011～12年度に数量要因による押し上げがみられたものの、相対的に影響は小さく、原油と同様に価格の上昇が輸入額を押し上げ（図表3）。また、2013年度は、原油・LNGともに為替要因（円安に伴う円建て輸入額の増加）が、輸入額増加要因の大半を占める結果に。
- (3) 先行きも、数量要因が原油・LNGの輸入額に与える影響は、限定的となる見込み。節電や省エネの定着を背景に、震災後の電力需要は実質GDPが増加するなかでも、減少傾向が持続（図表4）。先行き、景気回復の持続とともに電力需要は増加に転じるとみられるものの、電力需要の伸びが緩慢にとどまるなか、燃料消費量の伸びも緩やかとなる見通し。

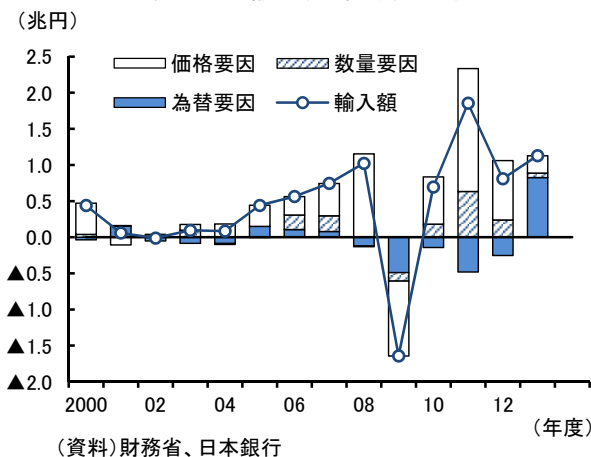
（図表1）原油・LNG輸入額の輸入全体に占める割合



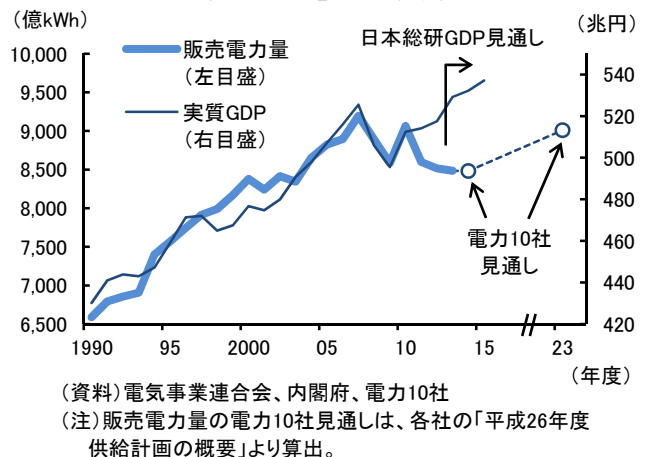
（図表2）原油輸入額の変動要因（前年差）



（図表3）LNG輸入額の変動要因（前年差）



（図表4）販売電力量と実質GDP



(4) このため、先行きも資源価格や為替相場の行方が、原油・LNGの輸入額を大きく左右する見込み。ちなみに、輸入量を2013年度と同水準と仮定し、資源価格・為替相場の変動が原油・LNGの輸入額に与える影響を試算すると、円安が5円/ドル進行すると約1.1兆円、また、原油価格が5ドル/バレル上昇すると約1.0兆円、原油・LNG輸入額が増加（図表5）。

(図表5)原油価格・為替相場が原油・LNG輸入額に与える影響
(兆円)

		原油価格変動幅(ドル/バレル)				
		<2013年度平均輸入単価 (110ドル/バレル)対比>				
		▲10	▲5	0	5	10
為替レート変動幅 (円/ドル)	▲10	▲4.3	▲3.2	▲2.2	▲1.2	▲0.2
	▲5	▲3.2	▲2.1	▲1.1	▲0.1	0.9
<2013年度平均 税関長公示レート (99.97円/ドル) 対比>	0	▲2.0	▲1.0	0.0	1.0	2.0
	5	▲0.9	0.1	1.1	2.1	3.2
	10	0.2	1.2	2.2	3.2	4.3

(資料)財務省をもとに日本総研作成

(注1)LNGの輸入単価については、概ね原油価格に連動して決定されるため、原油価格の変動幅をもとに算出。

(注2)原油・LNGの輸入量を2013年度と同水準と仮定し、年間輸入額の増減を試算。

(注3)なお、2014年3月の為替レート(税関長公示レート)は102.30円/ドル、原油価格(輸入単価)は110ドル/バレル。